

第2回埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム運営協議会

1. 日時：令和7年3月26日 10:00～12:00

2. 議事（概要）

〈事務局〉

資料説明

〈中島会長〉

事務局からご説明ありがとうございました。本当に様々なチャレンジをしていただいた年だったかなという風に思います。

参加をしていただいた団体の方、たくさんおられるかと思いますので、ぜひご発言いただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

埼玉県立大学の東先生、「つながる SAITAMA 大賞」の審査委員長をしていただきましたけれども、いかがでしょうか。

〈東会員〉

はい。私この「つながる SAITAMA 大賞」の選考、審査と、この表彰式と参加させていただきました。実は選考をどうやってやるんだろうと思ったんだけど、すごく資料が充実していて、私は中心になった6団体ぐらいたく見えて、評点をつけていくようなことをやりましたが、複数のメンバーで審査委員を組んでいたのだから、かなり公平性の高い審査になったというふうに思います。本当に甲乙つけがたくてですね、どれも高得点だったんですね。もう本当わずかな差かなというふうに思うんですが、この3つの団体が大賞と優秀賞という形で選ばれたというところでした。

「新座子育てネットワーク」はもう1999年に設立されて、非常に長い間取り組んでいて、「埼玉りそな銀行」は企業として場所を開放するだけじゃなくて、従業員の方がボランティアで取り組んでいるんですね。「ムーミンの会」は不登校や、それからひきこもりに関して、かなり当事者目線でいろんな支援をされていて、どれもやっぱり他にないものを持っていたというところだと思います。

初回だったんですけども、これはすごくいい試みで、それぞれの団体の特徴っていうのを発信することができたっていうのは、意義のあったものだったというふうに感じました。私も参加させていただいて非常に学びが多かったです。ありがとうございました。

〈中島会長〉

はい、ありがとうございました。私もとても素敵なものができたなというふうに思っていて、先生審査、取りまとめでいただきまして本当にありがとうございました。

それでは、大賞を受賞された「新座子育てネットワーク」坂本会員一言いただいてよろしいでしょうか。

〈坂本会員〉

ありがとうございます。第1回の表彰、しかも大賞をいただいて、大変スタッフ一同、喜んでおります。

この賞の内定をいただいてから、急遽もうひと頑張りしようということで、孤独・孤立対策に有効な、埼玉県で誕生したプログラムということで「なかまほいく」のシンポジウムを開催しました。

この表彰式の数日前に開催したと思うんですけども、まだ公表はせずに、孤独・孤立に有効なプログラムとして、マルトリの虐待防止の観点から「共育て」を推奨されている福井大学の友田先生に講演をいただいて、全国の皆さんに、オンラインで参加していただきました。非常に申し込みが多くて、やはり孤独・孤立対策で、何をしたらいいのか、どんな取り組みがある

のかつていうことを探してらっしゃる自治体のご担当者の申し込みがすごく多かったんですね。なので、必要な取り組みだけでも、じゃあ何をすればいいのかと、どこも多分悩んでいらっしゃるようなアンケート結果などもあり、埼玉県で表彰という形で、事例を提供していくのは非常に有意義だなと実感を持ちました。

以上です。ありがとうございました。

<中島会長>

ありがとうございました。大賞おめでとうございます。

続いて「埼玉りそな銀行」の鈴木会員もいらっしゃいますでしょうか。

私昨日まで、秩父にゼミ合宿行っていたんですけど、山歩きしていたら埼玉りそな銀行の森が出てきて、いろんな活動されているんだなんて思っていました。優秀賞おめでとうございます。もし一言いただければ。

<鈴木会員>

ありがとうございます。光栄な賞をいただきましてありがとうございました。

埼玉りそな銀行の森も宝登山の方で目立つところにありますので、今後もっと皆で整備していきたいと思っています。

今回の取り組みというのは、当然我々だけじゃなくて、その利用団体の、今回で言うと、「越谷こどもサポートネットワーク」の草場様のお力添えがなければ、当然いただけなかったなというふうに思っています。

我々、結構スペースとか持っているんですけども、やはりその運営をしていただける方との繋がりとかそこのルール決めだとか、その辺が一番難しくて、それがうまくいったのが「りそな YOUTH BASE」かなというふうに考えています。

我々銀行業界ですと、全国銀行協会っていうのがありまして、やはりそこもこの孤独・孤立の問題を、どう業界として関わっていくかみたいなのところの中で、我々のこの「りそな YOUTH BASE」の取り組みが全国で発表されていて、今、金融庁の方々にいろいろ問い合わせが各地方圏金融機関から来ているような状態です。

やはり皆様悩まれているのが、団体さんとの取り決めだとか、運営の主体はどうするのかとか、鍵の管理はどうするか、そういう細部のところまで、今我々の事例を展開させていただいているような状況です。

その中でこの賞をいただいたっていうのはひとつ、ものすごい後押しになっておりまして、光栄な賞、本当にありがとうございました。以上でございます。

<中島会長>

どうもありがとうございました。おめでとうございます。

東委員からも、それ以外にも、たくさん素晴らしい活動があったということです。また来年度以降も続くということかと思しますので、ぜひ受賞していただきたいなと思います。

それ以外のメタバース空間の活動や、つながるサポーター養成とか、様々素晴らしい動きがあったと思います。いかがでしょうか。皆様から、感じられた点など、いただければと思います。

つながる SAITAMA フェスタにもご参加いただいているようですけど、さいたまユースサポートネットの青砥会員、いかがでしょうか。

<青砥会員>

はい。ありがとうございます。

私どもさいたまユースサポートネットでは、埼玉県の「バーチャルユースセンター」を受託させていただいて、今回のこのフェスタの方には参加をさせていただいております。

今、試験運用中ということで、バーチャルユースセンターの方を試行錯誤しながら運営しているところではありますが、先ほどもフェスタがやっぱり普段から繋がりのある方の参加が多かったというご報告もありました。バーチャルユースセンターも、やはりさいたまユースを知っていると、何らかの形で行政機関と繋がりがあって、バーチャルユースセンターの方にき

ていいかなという風に思っていただけ利用者が多くいらっしやいまして、リアルで繋がりのある人で、リアル of 居場所の時間でないときに、孤独を感じて、バーチャルユースセンターやオンラインのプラットフォームのニーズがあるなというふうに感じることもありますし、やはりリアルに來られない方のニーズというところも、これからやっていかなければならないなというふうに思っているところです。

つながる SAITAMA フェスタもバーチャルユースセンターもそうですけれども、先ほどアバターのお話が出ましたが、私どもの活動でも、誰がアバターになっているのかということ、リアルにはなかなか來れない方は特に、どんな人がここにいるんだろうと不安に感じるということがあるように思います。そういった方々にも安心して來ていただくためには、私たちのこと、バーチャルユースセンターのことも含めて、こういう専門職のスタッフが待っているよということを、もっと認知していただく必要があるかなというふうに感じていまして、試験運用中ですが、これから周知活動も力を入れていきたいというふうに思っています。

その時に、ここに参加して下さっている孤独・孤立プラットフォームの参加の皆様との、私たちの繋がりというのは、すごく大事になっていくんじゃないかなというふうに思っています。私たちが地域で繋がりが増えるということが、すなわち必要な方へのいろんな情報を届けられるということになるというふうに感じますので、ぜひ皆様のお力をいただいて、一緒にさせていただくことで、孤独を感じてらっしゃる方、必要な方に伝えていけるような、支えていけるような地域づくりになっていくのかなというふうに感じているところです。ありがとうございます。

<中島会長>

ありがとうございました。

実は池袋のある豊島区で審議会の会長をしているんですけど、1月に福祉だけでなく豊島区 of 全幹部の孤独・孤立の研修会をやらせていただきました、100名近い幹部が集まったんですけど、非常に埼玉県の取り組みに関心を持っていただきました。このつながる SAITAMA フェスタとか、メタバース空間とか。

総合政策とか住宅とかの部署が非常に、やはり行政やあるいは共同でこういうことができるって素晴らしいですね、と言っていて、とてもすばらしいチャレンジだなと思っています。本当にありがとうございました。

非行克服支援センターの春野会員も資料をご提供いただいたと聞いていますが、いかがでしょうか。

<春野会員>

春野です。そうですね、メタバース of このフェスタには、資料提供として参加させていただいたんですけども、日程的に厳しいこともありまして、宣伝はしたんですが、多くの人が参加したかどうか、今、私たち自身としては掴めていないところです。

この孤独・孤立の連携会議というのは本当に大事な会議だなと思うんですが、私たちは埼玉県の非行問題についての相談窓口を受託しているんですが、実際問題としては本当に孤独・孤立の方々が、心配な事柄がたくさん起きて、昨日も深夜に及ぶような相談があったんですけども、本当にそれで手一杯みたいなところがあります。

実際にいろんなところと繋がるってことが本当に大事だと思うんですが、内容的なこともあり、なかなか相談に見える方が、ときには名前も言えないっていうふうな方もいらっしやいます。すごく深刻なことで、生きているのが大変っていうふうな方々がたくさんいらっしやいます。そういう中で、どういうふうに皆さんとの連携を実際 to していけるのかというのが、連携していきたい思いがものすごくあって、いろいろラブコールを皆さんのところ to しているんですけども、実際に繋がるというのがどんなふう to したらいいのかなというふうに思っているところです。

それぞれ皆さん活動されているので、すごくお忙しいと思うんですね。そういう中で、このイベントをどんなふう to つなげてやりやすくしていくかというのも、課題だという感じがしています。これだけの団体がこう繋がっていくのは、すごく大事なんですけども、本当にみんなが集まるところとか、今日の会議でもそうなんですけれども、それを模索していくという

のは、実際問題としては大変だなというふうなことを感じています。

非行の問題で言えば、今はやっぱり昔みたいな見るからに非行少年グループみたいなのはいないんですけども、普通に育てて普通に大学あるいは高校行ったのに、そこからお金の問題ですとか友達の問題、孤立しているのが大きいと思うんですが、いろんな繋がりがあって、先に破綻してしまったとか、ホストに貢いでいるとか、そういった相談もすごく多いというのが現状です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。大事な取り組みの話をしていただきました。

話は少し変わるかもしれませんが、3月は自殺防止月間なんですね。それで厚労省の自殺防止の様々な評価を、私やらせていただいているんですけど、例えば歌舞伎町界限とか、トーヨー何とかとかいったりすると思いますけど、様々な10代20代の女性支援とか、自殺防止に絡むような形でいろんな議論がされていまして、実はメタバース空間のこういう支援も始まったりしているんですね。

だから今、春野会員からお話あったような、こういうメタバース空間やフェスタの取り組みは、少しずつ広がりつつあるかなと思っていまして、埼玉の取り組み素晴らしいなと思っています。

こういう取り組み、やっぱりNPOの方が非常に頑張っておられるんですよね。埼玉NPOセンターの村田会員、いかがでしょうか。こういう埼玉県の動き見ていただいて、もしご発言可能であればお願いします。

〈村田会員〉

すみません、私休職していたせいもありあんまりついていけないんですけど、内閣府がやっている全国版の方のプラットフォームありますよね、その会員数が409なんですよ。今日ご報告で埼玉県は160って聞いて、本当に埼玉県頑張っているなと思いました。やっぱりこういうことはやっぱり自治体単位でやっていかなくちやいけないんだなと。もっと言うと、県からもう少し市町村に下りるような工夫っていうのも、やっていかなくちやいけないなと。

〈中島会長〉

ありがとうございました。全国409という団体があるってこと教えていただきました。そういう点で言うと埼玉160。頑張っていますね。

おっしゃる通り、だんだん今年度入ってからですかね、少しずつ全国的にも、市区町村単位での官民連携プラットフォームが作られ始めているという感じですので、埼玉もこれからということかもしれない。確か秩父市もプラットフォーム作っていましたかね。

済生会の小池会員、いかがでしょう。こういう動きを見ていただいて、どのようにお感じになっていますでしょうか。

〈小池会員〉

ありがとうございます。今年度本当にたくさんの活動、丁寧にされて、広がりが出ますばらしいなと思っています。報告には出てこなかったんですが、いろいろな各団体のセミナーとかイベントとかもメールでお知らせいただいたことも、いろんなNPOの方がされているのをなかなか知る機会もないかと思うので、そういったことを事務局から情報提供いただいたのも、大変ありがたかったかなと。いただいた情報については、済生会の中の各拠点の方にも情報提供させていただいたところ「こういう団体さんがあるんですね」とか「活動があるんですね」というようなコメントをもらいましたので、ひとつひとつ、いろいろ事業多いかと思っていますけれども、継続していただけたらと思います。簡単ですが、以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。

武蔵野銀行の谷口会員、いかがでしょうか。昨日秩父に行ったときに、武蔵野銀行の空き店舗に社会福祉法人が障害者の拠点を作ったりしていて、こんな繋がりあるんだなと思って見て

きたんですけど。一言いただけたらと思います。

<谷口会員>

武蔵野銀行の谷口でございます。横瀬町の旧店舗のところの取り組みかなと思ひまして、ありがとうございます。

私どもも、空き店舗の活用もそうですし、今お話を聞いて、やっぱり初年度いろいろ様々な取り組みをされていて、「つながる SAITAMA 大賞」ですとかメタバースの空間ですとか、いろいろな活動されている中で、やっぱり情報発信するというのは非常に大切なんだなということを、お話を聞きながら思いました。

埼玉県進んでいるということですが、本当に好事例の方をどんどん発信していただいて、市町村単位でもこういう取り組みの裾野がどんどん広がっていきけるような仕掛けを、こちらの協議会の方でも、また今後も話し合えたらなと思っています。

私どもも、今例えばヤングケアラーの方が、いろいろ悩みだとか話すような場づくりみたいなものを何年か前からやっているんですが、やっぱりそういう対面の場合でも、すごく皆さん楽しそうにというか、いきいきと話されてらっしゃるので、お互いの悩みとかですね。やっぱりメタバースもそうですし、実際対面のリアルの場も作っていくことも大切なんだなと、日頃から思っていました。

ぜひこのプラットフォームを通して、今後埼玉県の一層の取り組みを、進められるような仕掛けを、ご一緒に話し合えたらと思っています。どうもありがとうございます。

<中島会長>

ヤングケアラーの取り組みもされているんですね、素晴らしいですね。ありがとうございます。

さいたま市の瀬藤会員、自治体から見て、こういった動きについていかがでしょう。

<瀬藤会員>

はい。さいたま市といたしましては、なかなかまだ具体的な取り組み等ですね、市として、行政として行うことができていないところではあるんですけども、各民間の団体の取り組み等を参考にさせていただきながら、今年度の取り組み、様々されてらっしゃいましたので、来年度以降何か取り組みができればいいなというふうに感じているところです。

<中島会長>

はい、ありがとうございました。

行田市の田島さん、いらっしゃいますでしょうか。行田はね、重層的支援体制整備事業取り組んでいますよね。いろいろやっておられると思うんですが、お願いします。

<上村会員（代理：田島様）>

はい、お話をお伺いさせていただきまして、行田市では、ひきこもり、ヤングケアラー、いわゆる制度のはざまになっているところの支援というのをやっております。アウトリーチという形で、民生委員さんや地域包括の関係の方、地域からの情報を持って、ひきこもりの方がいる場合には、こちらから訪問する、また、社会参加につなげていくということで、今取り組みさせてもらっています。ただ訪問しても会うまでがなかなか大変だということとがありまして、その会えなくても、訪問することに意義があるということでやらせてもらっています。

そういった中で、こういったメタバースの空間のフェスタの周知とかもですね、そういった方々にしていければいいかなというふうにちょっと思いました。以上です。

<中島会長>

本当にいろんな取り組みを行田市さんされておられますので、ありがとうございました。

ピッコラーレの松下会員いかがでしょう。

<松下会員>

今年度ほとんど参加できなくて申し訳ありませんでした。

どんな方たちがアクセスしたのかという分析をぜひ伺いたいなと思いました。私たちの団体は、妊娠葛藤を持つ方たちの相談窓口を運営していますが、本当に必要な人に相談窓口の情報が届いているのかどうかというのは、常に課題となっています。社会から見えなくされている存在にどうやって情報を届けるかということの参考にさせていただきたいと、皆さんのお話を伺いながら、思い巡らせていました。以上です。

<中島会長>

ありがとうございます。

私も昨日豊島区でひきこもりの協議会やっていたんですけど「ひきこもり」って言葉を使うかどうかとか、当事者の方の話を伺いながら、どうやって情報を届けていったらいいとか、本当にいろんな話をしていました。ありがとうございます。情報をどう届けるかということの話をいただいたと思います。

コンパスナビの高橋様、星野様、いかがでしょうか。

<神吉会員（代理：高橋様・星野様）>

はい、今ピッコラーレさんがお話くださいます、私たちも、妊娠葛藤相談で本当に助けていただきました。それから、高校中退して学歴を何とかしたいということも出てきたら、やっぱりさいたまユースサポートネットさんの力借りたりと。コンパスナビだけで持っているヒューマンリソースでは、十分に対処できない場面が多々起きてくるんです。この孤独・孤立のメンバーの、いくつかの団体さんには、本当に普段から日常的にお世話になって、介護が回っているというところがあります。それが現実なんだと、そういうことが進められればいいんだと、時々思うんですね。

例えばヤングケアラーのことだけ言うと、こどもが本来やらなくてもいいことをやるために、様々な大変な状態になっているでしょう。「あんた大変でしょ」って、指さして「あなたヤングケアラーよ」と言っても本人に自覚がなかったりするんですけど、そのヤングケアラーの状態が起きているということは、家族の他の人も困っているわけで、例えば、精神疾患を持っているお母さんだったり、複合的に起きていることを全部取り除いていかなかったら、問題解決しないよね、だけど、家族の問題は外になかなか言い出しにくいよねっていうのを解きほぐして、支えていかないといけないんだなと思いました。児童養護施設へ出た後に家庭復帰をしたんだけど、養育能力のなかった家庭に戻ったからといって、決して親との関係がよくなってない。そこでまた新たに、経済的な搾取にあっている児童養護施設出身者だったり、それから妊娠葛藤が起きたりというようなことが、決して解決しないまま再生産されているのを、日々支援をしている状態です。

ですので、さっきの青少年の犯罪の非行克服支援センター様のお話も含めて、快刀乱麻のような解決はないんですが、こちらの孤独・孤立対策のメンバーの方々と繋がっていく中で、支援者自身が疲弊をしないようにしていく視点を持っているというのが、今日もまた確認できました。ありがとうございました。

あと、埼玉県での取り組みで、最初に見せていただいた YouTube 広告、素晴らしい広告だったというふうに思います。なかなか莫大な予算がかかるので、やっぱり広く、こういうことをやっているということを、一般の方たちに周知してもらわないと、いくらいいものを作っても、認知されなければ何もならないので、この広告を 30 万回達成、素晴らしいですね。制作会社が作っているものだと思いますけど、そこと打ち合わせをしたり、何かというところはもう非常に関係の職員さん、ご尽力いただいたんだなというふうに思います。こういう発信は、ぜひ続けていただければと思います。ありがとうございます。

<中島会長>

ありがとうございます。

この広告、20 代から 40 代という非常に地域との接点の少ない世代に届いていると思うと、とても意義があるなというふうに、本当に思うんですね。それから支援者支援の話もしていただきましてありがとうございました。

私も児童養護施設の評議委員をやっているんですけど、いろんなケースの話になると、大変な状況にあるなというのは本当に共有しているところです。9月に意見交換会で、妊産婦・乳幼児の子育て期の孤独・孤立の議論ができたのもとっても重要ないい機会だったなと思っておりまです。また、どういう意見交換会をやるかというところで、いろんなアイデアをいただけたらと思います。

もう1人ぐらい伺ってから先に進みたいんですが、にじーずの遠藤会員いかがでしょうか。

〈遠藤会員〉

はい。私たちもメタバースの居場所をやっているんですが、なかなかメタバースとなるとやっぱり全国からアクセスできるという、地域性を問わないところが利点なので、なかなかその県内でやったときに、県外からも参加したりとか、そういうニーズもあったりするのかなという、その辺の、どういうふうにメタバースの利点と地域のことをやっているのかなということが知りたいと思ったことがひとつ。あとちょっと他のメタバースのプラットフォームに比べるとデザイン性が大分昔の感じかなと思うので、その辺ももう少し、今の特に若者世代ですと、ゲームとかで大分いろんな洗練されたデザインが増えているので、その辺も少しアップデートできるところがあったらいいのかななんていうふうに思いながら聞いていました。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございます。ぜひそういうアップデートの話はアイデアをいただいて、よりいいものが作れたらと思います。

それでは、令和6年度の取り組みについてご意見はいただいたということで、次の議題に進めさせていただきたいと思います。

議題2、埼玉県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの令和7年度の活動予定についてということで、では事務局からご説明をお願いします。

〈事務局〉

資料説明

〈中島会長〉

はい、ありがとうございます。内閣府の交付金の内示もあったということですので、予算も確保できたというところじゃないかと思いますが、嬉しいことですね。ではいかがでしょうか。来年度の取り組みについて、事務局からご説明がありました。

まず、Web広告の視聴傾向結果について、丁寧にご説明いただきました。思っていたより高齢者の方が見ていただいたというようなご報告もありました。いかがでしょうか。お気づきの点等ございましたらお願いいたします。

平均50%以上見ていると、よく見ているということですから、6割見ているというのは素晴らしい結果ということなんだと思います。やはり深夜帯が多いみたいですね、見ている方。

東先生、いかがでしょうか。こういう結果が出ているようですけど、何か先生、お気づきの点ございますでしょうか。

〈東会員〉

そうですね。深夜帯がやっぱり多いんだなと思って、YouTube。私はどちらかというと青少年関係のところをやっている人間なんですけど、もう本当最近相談が多いのは、保健所なんかでも相談やっていて、こども若者がYouTubeをもう連続で深夜見ているという、それで生活リズムが崩れていくというのも本当に多いパターンで、今その人が見たテーマに近いものを次々に出てくるわけで、それで夜ずっと見ているというのが多かったのですね。深夜によく見ている世代、年代ってのはどのぐらいなのかなという。先ほどちょっと紹介があったと思うんですが、気になったところではあります。

ただ高齢の特に男性が多いというのが、こういうところ少しいろんなデータを整理して、もう公開されているとかあるデータの中でもわかってくるものがある。あるいは、こだわらなったら、予算があれば少し大規模なアンケート調査をしてみるっていうのも考えられるのかなと

は思いました。私調べていなくて申し訳ないんですが、確かに私 5 年ぐらい前に孤立というか、世帯収入に応じた青少年、その親を含めた意識調査をやったことあるんですが。高齢者も含めたところの根拠資料になるものを少し集められたらっていうには思いました。

これは動画の視聴だけのデータなので、何かもうちょっと裏付けがあると良い。もう少し深めてわかるんじゃないかなと思いました。特に高齢者、男性のところ。私こどもの相談で受ける範囲でしか聞かないんですが、定年退職後のお父さんが、という話はよく聞くんです、お父さんがずっと家にいてという話は聞くんです。そんなところを気になったぐらいです。

〈中島会長〉

ありがとうございました。もう少し丁寧に掘り下げて分析してはどうかというご提案いただいたと思います。そうですね、もともと 20 代～40 代をターゲットにして動画は作ったけれども、思ったよりも高齢の男性が見ているようだということですね、事務局の分析からすると。それがもう少し世代別に視聴率の違いの傾向とかがさらに見えると、もっと興味深いかもしれないんですけど、また何かの機会にそんなものがあればと思います。事務局は何か補足的な説明ありますか。

〈事務局〉

時間帯別・年代別でどの程度見ているかは今回の調査では出なかったんですけど、どの世代でもやっぱり深夜時間帯が視聴者維持率が高かったっていうところと、高齢者の方に多く動画が表示がされているということ、男性と女性で結構差が出ているという結果でした。結果の深掘りはまだできていないんですけど、今後検討させていただければと思います。

〈中島会長〉

またぜひ、少し整理ができたところで、例えば一番視聴した年代は 40 代なのか、30 代なのか、60 代なのかとか、具体的なのがあったら、もっと皆さんイメージがさらにしやすいので、もしそういう数字が出せればいただけたらと思います。ありがとうございました。

村田会員、今お話いただこうと思っていました。ありがとうございます。

〈村田会員〉

高齢者の孤独は本当、古くて新しい問題なんですけど、やっぱり今、多死社会ですよね。団塊の世代がどんどん死んでいて、私も団塊の世代なんですよね、実は 806 万人ぐらいいる人が順々に死んでいて。今までは笑い話のように、旦那さんが死ぬと、奥さんはすごい生き生きするみたいなのが、おもしろおかしくマスコミなんかで言っていたけど、私が見る現実は違うんですよ。やっぱりすごく落ち込むんですよ、残された人が。そして突然耳が聞こえなくなったりとか、やっぱり私たちから見ても、ちょっと鬱的なんじゃないかと思われる症状になっていく人が非常に多いんですね。ということと、私たち介護者サロンやっているんですけども、見ていた旦那さんが死んじゃってからもずっと来る人が多いんです。多いところになると、そういう人が半分ぐらい来るというか。今介護者サロンにそんなにたくさん来ないんですけど、例えば 4 人来ると 2 人ぐらいが、亡くなったけど、話し足りないのか、いさせてと言ってくる。そういうケースがすごく増えているんですね。

で、残された人たちへの何らかの支援が必要なんじゃないかなと。それをどういうふうに作っていったらいいのか。リアルに言うと、そんな高齢者に支援なんか貴重な財源を、みたいに言われそうなんですけども。だけど突然難聴になった友達を見ると、本当に切ないんですよね。体も悪くなっていくし。そこで健康にね、一人暮らしが過ごせないのかなと。ウェルビーイングの視点になると思うんですけども、そういう問題意識を、私は今持っています。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。重要なお話をいただいたと思います。高齢者の相談に当たっている地域包括支援センターの相談員の方がよく言うんですけど、要介護の高齢者のご本人がなくなると、一気に支援をしていた方がスーッと引いていくと。そうすると今までずっと介護をしていた、例えば奥様とかがぼつんと 1 人残されてしまうという。この寂しさ、孤立感・孤独感

はすごいということで、できるだけ急に引かないように、少しずつ少しずつ関わっていくようにしているというお話を聞いたりしますね。今の多死社会の話、急に耳が聞こえなくなった方もいらっしやったという話でしたけど、とても大事なことだと思います。この点どうでしょう。済生会の小池さんなど、同じような状況を見ていらっしやるんじゃないかと思いますが。

<小池会員>

小池です。はい。本当に最後を迎えるときの支援の仕方ってとても重要だなと思っております。今回の広告、本当に素敵でいい感じに仕上がってitanですけど、少し気になったのが、このポータルサイトへのアクセス数が増えたということなんですが、見て実際にアクセスした人の年齢、性別層というのは分析できるのでしょうか。最初、動画を見始めたときは、これは孤独・孤立系のだというのはわからないで、前半見ていると思うんです。見終わった後、そこまでアクセスしている、そこに一番ニーズがあるんじゃないかなと思うんですけども。そこはちょっと分析難しいのでしょうか。すいません、先生の問いとちょっと違う発言になっちゃって申し訳ないんですけども、もしわかったら教えてください。

<中島会長>

ありがとうございます。事務局いかがでしょうか。

<事務局>

はい。事務局です。動画を見てクリックして、ポータルサイトにアクセスしていただいた方々の割合なんですけれども、世代ごとに大きな差はなかったんですが、そのなかでも最もクリックしてくださった方は、45歳から54歳の女性という結果になりました。この世代の方が最も関心を持ってくださったのかなというふうに思っております。以上です。

<中島会長>

ありがとうございます。これまた興味深いですね。45歳から55歳の女性が最もクリックする割合が多いと。これもまた面白い、興味深い話で、なぜなのかというところがまた知りたくなってきます。ここに1つの孤独・孤立があるのか、どういう課題があるのかっていう、興味深いですね。

<坂本会員>

すみません、今の中島会長のコメントの世代って非正規の女性の貧困層に当たっているんじゃないかと思いました。

<中島会長>

ありがとうございます。なるほど。非正規の女性の部分ですね、貧困の部分ですね。確かにひとり親家庭で子育てをしている、こどもの貧困のところとか、あるいは単身女性の場合もあるでしょうね。なるほど、ありがとうございます。

あといかがでしょうか。全体を通して気になった点ですとか。

それと関連しまして、意見交換会のところ、少しご意見いただきましょうか。ひとつは、アクセスも多かったんじゃないかという、単身世帯、単身高齢者世帯の孤独・孤立というところ、これは国勢調査とか見ても、今単身化が急速に進んでいますので、ここのテーマは埼玉県としても非常に重要なテーマということなんだろうと思いますが、それよりまちづくり、地域づくり、繋がりづくりなど。ご提案を事務局からありました。皆さんいかがでしょうか。そんな意見交換を、今まで過年度では、この3つのテーマをやってきたんですけども、今のいろんな議論も含めて、どうでしょう。

武蔵野銀行の谷口さんどうでしょう、銀行も高齢者の方、たくさん見られると思います。

<谷口会員>

そうですね、私もお話をお伺いしながら、現場の支店のほうにいらっしやるお客様のことをちょっと考えていました。その支店で結構、県北だとか県西部の店だとか、やっぱり単身で、

奥様に先立たれた 70、80 代の男性の方だとか、金融関係のご要望と言うよりも私たちの職員とのコミュニケーションを求めているんじゃないかというお客様が非常に多かったもので、実際先ほどの YouTube のところのアクセスのところも、高齢者の方も男性が多いってところのお話とも重なりまして、やっぱり単身世帯の高齢世代の方をテーマに意見交換会というのはひとつあるのかなと思っています。

お体は銀行に来店できるので元気なんですけど、やっぱり心の部分では、人との会話だとか、コミュニティだとか、銀行の窓口の方でも本当に 1、2 時間ぐらい、ずっと職員と身近な話、生活の話も含めて、すごく話を求めているんじゃないお客様というのは、一定数いらっしゃると思いますので、必要なテーマかなと感じていました。

あとちょっと先ほどのお話なんですけど、私も 45 から 54 とか、同じ世代なんですけど、同世代の女性の話を聞いていて、もちろん非正規というところだとかもあるかと思いますが、あとは子育ても落ち着いてからの空の巣症候群ではないですけども、学校だとかそういうところの繋がりも消えたところで、自分のこどもが独立したところで、少し孤独だとか、そういうところを感じられたような女性層もその年代はいるのかなというふうに思いました。以上です。

<中島会長>

ありがとうございました。先ほどから出ているような、クリック、アクセスが多かった 45～50 代の女性というところもひとつ、気になる年代のテーマだと思いますし、また、ATM で処理がパッとできてしまう若者と、一方で高齢者を中心として窓口の方に非常に支えていただいている、そういう高齢者の方も金融機関など多いんじゃないかなと思います。

では、行田市の田島さんいかがでしょう。行政の立場からすると、どんな意見交換あったらいいですかね。

<上村会員（代理：田島様）>

はい。そうですね。お話伺いしております、やはり今回の案に挙がっている、単身世帯、単身高齢者世帯というのが、本当に今増加傾向ということで、ちょうどタイムリーな話題ではないかと思います。一般的には地域づくりなんかは、埼玉県とか大きな広域でできるものではなくて、やっぱり各地域という形で活動していくものでありますので、埼玉県さんとしては、取りまとめといいますか、後方支援という形で、各地域を支援していただくということで、テーマとしては、この案の通りでよろしいかとは思っております。以上です。

<中島会長>

はい。ありがとうございました。他はいかがでしょう。今、埼玉県で意見交換するとすると、こんな優先順位でやっていくと。これからも続いていきますので、令和 7 年度まず議論しておいた方がいいと言え、こういうテーマじゃないかということなんですけど、いかがでしょうか。どうぞ自由に手を挙げていただいて、ご発言いただけたらと思うんですけど。

<坂本会員>

単身高齢世帯となると、幅がすごく広がって、年齢的にもう少しフォーカスしたほうがいいような気がします。YouTube 広告とか活用する媒体を考えると、やっぱりあまりにも高齢すぎると、アクセスされてない人も多いと思います。さっきのデータもあったように、これも若手の高齢者という大変ですけども、媒体にアクセス可能な年齢で幅を絞り込んだ方が、効果が上がりそうな気がします。どうでしょう。

<中島会長>

なるほど。ありがとうございました。総務省の調査などを見ると、60 代までのインターネットアクセスは 8 割超えるんですね。それが 75 過ぎてくると、ガクッと落ちてくるってところがあるんですけど、そうすると少し、前期高齢者ぐらいまでに絞りますか。それで、45、40 代、50 代とか、中高年層ぐらいでイメージしてみますか。この単身世帯っていうのは若者も入っていますよね。事務局的には。

<事務局>

はい、そうですね、国の安心・つながりプロジェクトチームも現役世代も含めてというのがあったので、そのイメージです。

<中島会長>

そうすると、本当に10代の高校卒業して一人暮らしを始めたぐらいの若者から、高齢者までという、確かに幅は広いですね。ただ単身の孤立は確かにその通りだなというのは思うんですけど、坂本会員から、もう少し世代を絞ったらいんじゃないかというご提案でした。いかがでしょうか。

坂本会員、そうすると絞るとすると、どれぐらいの世代に絞ったほうがいいと思いますか。

<坂本会員>

今年度取り組まれた媒体へのアクセス状況を踏まえて取り組んだ方が波及効果がありそうなので、さっきおっしゃった65歳ぐらい。前期高齢者ぐらいまでをターゲットにする、もっと絞るのであれば、若者ではなくて割とリタイアが間近になってきて、会社組織から、職場からも外れてしまう孤独感をリアルに感じつつあるような人達に訴えると、効果が上がるのかなと思いますけど、あまり絞り過ぎてもとは思いますが。いずれにしても、媒体にあまりアクセスしない後期高齢者の人達を除いた方がいいかもしれません。以上です。

<中島会長>

ありがとうございました。そうすると、先ほどの45～55歳の女性のアクセスが多かったということもありますので、40代から70歳までぐらいですかね。それぐらいの単身世帯を少し重点化して、今回の動画視聴ですとか、メタバースとか、つながるSAITAMAとか、そういう取り組みに関連してきそうな世代、そして子育てが終わり、仕事も少し転換期を迎えているような世代に重点化してはどうかと。これ単身化でよろしいですかね、まずは。もちろんご夫婦で暮らしていて、ご家族の中でも孤独感、孤立感を感じる方もいらっしゃると思いますが、まずは世帯構造的にお一人暮らしということにまず焦点化すると。頷いてる方が多いような気がしますので、令和7年度の最初の意見交換会としては、40～70歳ほどの世代の単身世帯の孤立ということで、事務局、いかがでしょう。

<事務局>

はい、ありがとうございます。大変参考になりました。引き続き参考にさせていただきながら検討していきたいと思います。

<中島会長>

ありがとうございました。なかなか面白い視点ですよ。確かにいろんな人生の過渡期で、ずっと子育て頑張ってきたとか、会社頑張ってきたってところに、ふと立ちどまって、今後どうしようという中での不安感を抱える世代なのかもしれない。重要なテーマかもしれません。ありがとうございました。

では、まずそこをやってみるということで、事務局少し案を練っていただけたらと思います。

あと、つながりサポーター養成講座。この辺りも引き続き取り組むということでもよろしいでしょうか。それからメタバース空間ですとか、デザインを少し現代風にというアドバイスもありましたので、また、予算の可能な範囲で少し手を入れていただくということと、つながるSAITAMA大賞は継続するということでご説明ありました。皆さん、異論ないかと思いますが、よろしいでしょうか。とてもいい情報発信になると思います。これ事例集も作るっていうことでよろしいんですかね。

<事務局>

はい。こういった形でまとめていくか来年度本格的に検討なんですけれども、いろいろな事例を紹介していけるようなものを考えております。

〈中島会長〉

ありがとうございました。素晴らしい動きをぜひ継続していただけたらと思います。埼玉りそなの鈴木会員、いかがでしょう。何か来年度に向けて、こんな取り組みはどうでしょうかありますか。

〈鈴木会員〉

はい。特に異論はありません。我々も今まではこどもの居場所とか、そういったところを中心に一生懸命、埼玉県の子どもの居場所の KPI もあったので、それに何かお手伝いできないかということで、一生懸命やってきたんですけども、特にやっぱ高齢者の問題とかがやっぱり置き去りになっていたという反省も会社としてはしています。

来年度からは、高齢者の方も地域の一員として、子どもたちを支えるような場に来ていただいたりとかということで、孤独感を少しでもなくしてもらいたいな取り組みも 4 月から実はスタートをさせようかなと思っています。具体的には、つながる SAITAMA 大賞の、この画面に映っている、先ほどご紹介しました草場さんの団体がやっている学習支援の日程をふやして、時間帯もふやして、そこに地元の老人会の方にご協力いただいて、銀行の店舗はこの YOUTH BASE なんですけど、YOUTH BASE にいてもらう。いつでも子どもが行きたいと思ったときに行けるような場みたいなものを提供することによって、こどもの居場所は当然ですし、ご老人の方の、老人会の方の居場所にもなるみたいなトライアルやろうかななんて思っていますので、今日の議論に合っているかなと思いますので、またご報告させていただきたいと思います。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございます。青砥会員いかがでしょうか。意見交換会は 40～70 歳になりましたけど、つながる SAITAMA 全体の取り組みとしては、もう若者含めてしっかりやっていきたい思いはあるんですが、何か昨年取り組んで、次年度に向けていかがでしょうか。

〈青砥会員〉

すいません、ちょっとご質問と違っちゃうかもしれないんですけど、先ほど、40 代、50 代の女性の方がポータルサイトを見に行かれているということがあって、そのポータルサイトの、どこに注目されていたのかというのは、もしわかるようだったら、とても興味深いなと思って、ぜひ教えていただきたいというふうに思いました。

それから、私ども、こども、若者、困窮層の子どもたち、若者たちの支援ということで、学習支援から居場所づくり、そして就労支援というところで、本当に先ほどコンパスナビの高橋さんがおっしゃっていただいたように、皆様に本当に力を貸していただきながら、こうやっていところなんですけれども、地域を繋げていくというか、地域の中で若者たちが活躍できるような機会を、私たち就労の支援のメンバーと一生懸命作っているんですけども、本当にそういうときに、その地域の、先ほどから出ている高齢者の方々、高齢者といっても、今、退職した後、またまた元気な方々いらっちゃって、そういった方々が、私たちの団体のような活動に繋がってくださって、若者たちを支えるということで、元気に活躍してくださって、私達もそういうところで非常に助かるっていうような、そんな地域の繋がりづくりができればいいなというふうには思っているところです。

ちょうど今日、地域の高齢者の居場所の継続がちょっと難しいというお話を伺いました。そのボランティアで来てくださっている地域の方のお話を今朝ちょうど伺ったときに、やはり家族と一緒に埼玉県に移り住んでいる、高齢者なんですけど、家族と別に住んで単身で暮らしてらっしゃる方で、非常に孤独・孤立を感じてらっしゃる、孤立してらっしゃる方が多いというようにお話を伺いました。地域にそういう居場所がない方、必要としている方っていうのが非常に多くなって話を、ちょうどタイムリーに今朝お話を伺って、私たちもこども若者支援ということでやっておりますけれども、そういった地域のいろんな方、生きづらさとか、いろんな苦しさを抱えながら、こう生きてらっしゃる方と、私たちの活動をどういうふうにつなげていっていかっているのを、少し考えてみたいなというのを、ちょうど今朝考えたところでした。

いろんなカテゴリーを作らなくてもいい繋がりができるというのが、この孤独・孤立プラットフォームのすごく有効なところなんじゃないかなと思っていて、やはりこうやって皆様と顔を合わせることで、私たちの団体ができないところで活動されている皆さん、助けていただけるという方々が、こうやって繋がりがあってということが非常に心強いなというふうに思いました。

〈中島会長〉

ありがとうございました。本当に多世代で取り組んでいくというのはとても大事ですので、若者と高齢者、一緒の取り組みがどんどん広がっていくといいと思いますね。ありがとうございました。

先日、民生委員さんと大学生も一緒にコラボした取り組みなんかも、大妻女子大学がやりしていて、いいですね、ととあるテレビ番組でコメントしたとこなんですけど。ありがとうございました。

そろそろ時間も迫って参りましたので、どうぞ手挙げていただいて、これ言っときたいというなものがございましたら、いかがでしょうか。コンパスナビの高橋さん、星野さん、いかがですか。

〈神吉会員（代理：高橋様・星野様）〉

ありがとうございます。7年度のなかでやっていくってところで、繋がりを作っていく取り組みの中で、空き家対策と、そこを場所としてつなげるっていうようなところと、遺贈っていうようなところ、一番、銀行関係さん強いんで、そういう事例が紹介できたらグッドじゃないかなと思ったんですね。繋がりの方を多世代の縁側的に使うみたいな。そういうのがあったらいいなというようなことを言っていました。

あと、星野が言っていたのが、先ほどの素敵な広告がYouTubeのコンテンツのどこにくっついて挿入されてきたときに見られたのかなというようなことはわからないんですかねという話。詳しい分析を途中途中でいただければありがたいなということです。

〈中島会長〉

ありがとうございました。先日豊島区でも、高齢者と若者が一緒に暮らす企画をできないかというのでご質問をいただいたりしていましたので、空き家対策とか、居場所とか、遺贈の問題とか、とても大事なお話いただいたと思います。

事務局の方で少し、先ほどポータルサイトのどの辺りにアクセスが多いのかとか、動画の視聴のどの辺に関心が高いのかというようなこともご質問あったような気がしたので、少し再確認いただいていいですか。可能な範囲で結構です。

〈事務局〉

はい。事務局です。今回はYouTube側の分析をさせていただきまして、ポータルサイトのどのページにアクセスされたというのは今の段階では把握できていないんですけれども、県のホームページの方が分析できるかと思いますので、参考にさせていただいて、どの年代がどのページとかまでは、もしかしたら行き着かないかもしれないんですが、今後のホームページも充実させようと思っておりますので、参考にさせていただければと思います。

また、コンパスナビ様からいただいた、どの動画に広告がつくかということも、申し訳ございませんが、こちらではわからない状況です。動画自体は、埼玉県公式YouTubeチャンネルにも載っておりますので、そこを直接見てくださった方もいらっしゃるかと思います。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございました。また、わかる範囲で、追加で分析できる場所で少し整理ができれば、また会員の皆様に追加で情報提供していただけると、大変興味深い資料だと思いますので、今後のものに生かせるんじゃないかなと思います。ありがとうございました。

そろそろ時間が来ていますけれども、東先生、最後全体を通して何かコメントいただけると

嬉しいんですけど、いかがでしょうか。

〈東会員〉

今年度1回目扱うテーマの単身者というのはそれでいいと思います。ただNPO法人、いろんな集まっているところはこども、若者のところに焦点当てているところも多いので、単身者のところの枠は少し広げておいたほうがいいのかなということも思っています。

このプラットフォームを始めるときに調査された、基礎調査をもう1回見直していたんですけど、結局一番孤独・孤立を感じているのが、20代、30代、特に埼玉県は20代が一番高いという、そういう出発点だったと思うんですね。YouTubeのアクセス数のこと聞くと、その上の世代の方が見ているっていうのは、逆に言ったら40代ぐらいが孤独・孤立を何とかしようって動いて、ちゃんと見ているっていう。20代はむしろ見ないというか、そういうところにアクセスしないということなのかなと、ちょっとそういう分析もありうるかなんて思いながら聞いていました。あと基礎調査を見ていたら、孤独・孤立を感じているのが、未婚であるというのと、同居人がいないというのが非常に高かったんですね、比率が。せっかくプラットフォームをスタートするときに基礎調査もデータがあるので、単身者というところに絞るのは私すごく賛成ですが、年齢の幅は少し大きくとってもいいかなというふうに思いました。議論するときに40代以上で見てもいいんですが、20代、30代の未婚であるとか、一人暮らしというところも、合わせて見ても良いかということは思ったので、そこ1回目の討論終わった後でもいいので、また検討して入れたらどうかというふうに思いました。以上です。

〈中島会長〉

ありがとうございます。国の調査でも、20代、30代の孤立感、孤独感が非常に高いというのが重点計画で出ていますので、ここは埼玉も同様ですから、若者の孤独感、孤立感の焦点というのは重要なところで大事にし続けるということなんだろうというふうに思います。

ありがとうございました。非常に重要なテーマがいっぱいありますので、どういうふうにそれを順々に議論していくかというのは、また事務局と相談しながら、整理をしていけたらと思います。

いずれにしても、今回単身世帯に少し焦点を当てて、そして世代については議論の仕方を少し事務局と相談させていただいて、ひとつは40代から70代ぐらいの人生の転機にあるということにやっぱりしっかりと焦点当てようということと、今の東先生が言われた、若者のところを見ていくかというところ、次の意見交換でやるのか、1個先の意見交換でやるのか、少しまた整理をさせていただきたいというふうに思います。

ということで、今回議論したかったところは概ねできたと思いますので、それを参考にして、また事務局で整理をしていただけたらというふうに思います。では事務局にお返しして、よろしく願います。